



# 音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之  
 TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email [nichion@yomogi.or.jp](mailto:nichion@yomogi.or.jp)

53 音楽祭申し込み状況	
演奏者(団体)	
Tonny	
日音協新潟県支部	
Rico & Tatsu	
私鉄総連	
全通音協	
日音協東京都支部	
日音協沖縄県支部	
メーデー合唱団	
日音協福島県支部	
林音協	
日音協秋田県支部合同	
日音協香川県支部	
メイウィンズ	
FMカンパニー	
ブービーバンド	
パールライス	
日音協青森県支部	
ふらっと・しゃーぶ	
日音協茨城県支部	
スポットライト	江崎文雄
日音協九州支部	
Kako と Mika	
かたくり	
自治労音協	
合唱団ミール	
日音協長野県支部	
ローカル線	
シングルトリオ	
おーたけじえーむす&おだかすや	



## 全国代表者会議を開催

### 53 音楽祭は感染症状況を8/7に見極め

日音協は、7月30日〜31日、ハイブリッド方式で、2022年全国代表者会議を開催しました。あわせて30日には第53回はたらくものの音楽祭第2回中央実行委員会、31日には第9回幹事会を開催し、水戸音楽祭の取り組み状況などの協議・確認しました。

申込状況は左表のとおりです。他にゲスト出演(いなのとひら・のことば)などが予定されています。

日音協茨城県支部を中心に、茨城県実行委員会が準備が進められています。ここにきて第7波の変化しながらの新型コロナウイルス感染拡大。政府は行動制限しない方針とのこと。

代表者会議では、音楽祭の開催および開催した際の全国交流会のあり方については、全国状況を踏まえ、8月7日開催の第10回幹事会で判断することとしました。

また、来年の第54回はたらくものの音楽祭は新潟県支部に受け入れていただくことになりました。2023年6月3日(土)〜4日(日)、新潟県長岡市・リリックホール(シアター)を前日から予約済みです。

そして11月の全国総会に向けては、幹事会の「役員せんこう委員」に、富山県支部の磯野友一さんをお願いすることになりました。

- 経過と今後の取組み予定
- 7/15 日音協ソング2022選考委員会(スーム) 8名+2名参加
- 7/30 原水禁福島大会
- 8/4〜6 原水禁広島大会
- 8/7〜9 原水禁長崎大会
- 9/3〜4 第53回水戸音楽祭
- 9/4 日音協ソング応募締切
- 9/16〜18 全国アコニストのつどい2022 静岡県伊東市
- 9/19 さようなら戦争さようなら原発9・19大集会(代々木公園屋外ステージ)
- 10/9 イットク・フェス2022
- 10/15〜16 (予定) 関東プロック合宿(講師に笠木博逸さん)
- 11/11 第59回日音協定期総会
- 11/12 護憲大会
- 11/13〜14 第1回日音協幹事会

(佐藤康弘)

※未確定の部分もありますが、申し込みは締切りました。次号には、プログラムを掲載予定です。





東日本大震災・福島原発事故から11年。40年～50年と言われた事故原発の廃炉作業の収束は、いまだ目途も立たない状況にあり、増え続けるトリチウム汚染水の海洋放出が、漁民や県民の反対にもかかわらず、来春、強行されようとしています。いまだ3万人近くの人々が避難生活を余儀なくされ続け、さらに補償や健康、地域社会の復興など様々な課題が山積しています。今大会でも、それらの現状を明らかにし、フクシマとの連帯を考えます。…。

2022年7月30日(土)、福島市・「ハルゼいいざか」にて、被爆77周年原水爆禁止世界大会・福島大会が開催されました。

日音協は、実行委員会との事前協議で「開会前の時間に、『日音協福島県支部の動画』を流してほしい」との要請を行い、(日音協HPでも視聴できる)「草茫々」「天神山の見晴らし台から」「僕は君のそばにいる」「セシウムの風に吹かれて」「ざけんじゃネー汚染水放出」の5曲(約30分)を紹介してきました。好評でした。参加者は約400名。(南條善徳)



写真は全て「ざけんじゃネー汚染水放出」より



## アルプス哀歌

八戸市 小玉 若枝

アルプスに降る雪は  
山々を覆い谷々を埋めて積もる  
あるものは万年雪となり氷河となる  
あるものは融けて地中に沁み込んで行く

地中に沁み込んだ水は  
長い年月をかけて濾過されて行く  
そして地表に清水となって現れる  
またあるものは湧き水となって現れる

地表に現れた水は  
沢となり山を下り川となり海に流れ出す  
そして草や木を育て虫や動物を生かし  
海藻を茂らせ魚や多くの生き物を育む

ALPSに入る水は  
大震災後に壊れた原発の出す放射能で汚染され  
タンクに溜まり続ける汚染水  
フィルターで濾過されて流れ出す

ALPSから出る水は  
処理水としてタンクに溜めて  
漁民らの理解なしには処分しない約束で  
敷地のタンクに溜めている

ALPSから出た処理水は  
知らぬ間にALPS処理水と名を変えて  
漁民らとの約束を反故にし抗議を無視して  
薄めて海の沖遠く流すと決められた

Alpsはアルプスと書けるけど  
ALPSはアルプスとは書けないようだ  
USAがウサとは書かないように

アルプス哀れ  
アルプスを泣く

(2022/3/31 デーリー東北朝刊)

【評・瀬川紀雄】

自然としてのアルプスと、大震災で汚染された処理水の名であるアルプスとを対比し、漁師との約束を反故にする、そんな時世を嘆いています。時世の過ちだろうことを訴えるのも、詩の重要な意義の一つと思われます。いや、最も重要な意義かもしれません。

## 日音協ソング2022の募集について

日音協の活動にご協力いただいていることに、改めてお礼を申し上げます。

日音協は、「みずからを表現する運動」「つくり・うたい・ひろめ・つなぎあう、四つの活動」として、一貫して創作を重視し、創作活動を推進するために毎年日音協ソングの募集と選考、紹介をしてきました。日音協のみずからを表現する運動の重要な柱である創作を推進するために、日音協ソング2022を募集します。選考委員会を構成し、応募曲の中から全国に広めたいうたを選考し、歌集、ホームページ、音楽祭などで広めます。9月4日を応募締切にしますので、新曲を積極的に応募されるようお願いいたします。

日音協各支部、各労組音協、各サークル、会員の積極的な応募を要請いたします。

### 記

#### 1 対象

- (1) 歌詩のついた音楽とし、詩だけ、曲だけの応募は受け付けません。みんなでうたえる歌、というような限定はしません。
- (2) 2021年までのはたらくものの音楽祭またははたらくもののインターネット音楽祭ですでに演奏されたことのある曲は対象にしません。
- (3) 詩または曲の作者である日音協会員が応募することとして、会員ひとり2曲までとします。
- (4) 日音協会員以外の方がつくった作品の場合、日音協支部の推薦が必要です。1支部につき2曲までとします。

- #### 2 応募方法
- (1)(2)のいずれかとします。(1)(2)のふたつを提出された場合には、どちらが応募作品か事務局から確認をお願いすることになります。

##### (1) 歌詩つきの楽譜

日本音楽協議会事務局に送るか、9月3日、4日に第53回はたらくものの音楽祭の受付に提出してください。

##### (2) 音源または音源つき動画

DVD、CD、カセットテープなどの媒体か、電子ファイル(ダウンロード先URLを指定する方法がおすすめです)として、日本音楽協議会事務局に送るか、9月3日、4日に第53回はたらくものの音楽祭の受付に提出してください。

- #### 3 締切り
- 2022年9月4日(日) 13:00

#### 4 応募曲と選考委員会推薦曲の公表

- (1) 応募曲はすべて楽譜集にして『音楽運動』号外の形で、日音協会員と機関紙読者にお届けします。
- (2) 応募曲の中から、選考委員会で全国に広めたいうたを選考し推薦曲とします。日音協第59回定期総会で披露し、日音協機関紙『音楽運動』に楽譜を掲載するとともに、2023年の第54回はたらくものの音楽祭で演奏していただきます。

#### 5 応募作品等の提出先

日本音楽協議会

事務所所在地 101-0061東京都千代田区三崎町3丁目10-15富士ビル505号室

ファックス 03-6369-3057

インターネットメール nichion@yomogi.or.jp

日音協のメール受信サーバーは割り当て容量が小さいので、動画データファイルや音声データファイルは、メール添付ファイルでなく、データ便などダウンロード先URLを指定する方法としてください。

データ便 <https://www.datadeliver.net>

または、第53回はたらくものの音楽祭(水戸市: ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホール) 受付にお持ちください。

日音協ソングの選考委員については、各支部などに推薦の依頼をし、会長の責任で調整し、全国代表者会議で確認されました。

今村一男(新潟)、後藤雅裕(秋田・幹事)、嵯峨高(青森)、塚本昇(長野・幹事)、細川剛(香川・幹事)、松本敏之(茨城・会長)、的場芳男(北海道)、山中正仁(九州)、の皆さんよろしくお願いいたします。

なお、選考委員だから応募できないということではありません。みんなで、『わたしたちの歌』を創り続けていきましょう。



今村さん



後藤さん



塚本さん



嵯峨さん



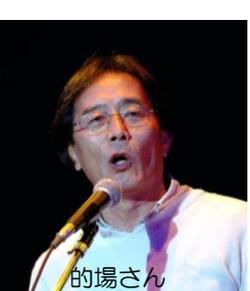
細川さん



松本さん



山中さん



的場さん

選考委員の皆さんです  
最近の写真じゃなくてスマセン

# 2022 平和の詩

## 沖縄全戦没者追悼式



6月23日の「慰霊の日」、糸満市摩文仁の平和祈念公園

沖縄市立山内小学校2年 徳元穂菜

びじゅつかんへお出かけ  
おじいちゃんも  
おばあちゃんも  
いっしょに  
みんなでお出かけ  
うれしいな

こわくてかなしい絵だった  
たくさんの人がしんでいた  
ちいさな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまや  
チョウチョの絵もあったけど  
とてもかなしい絵だった

おかあさんが、  
七十七年前のおきなわの絵だと言った  
ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて  
ガイコツもあった  
わたしとおなじ年の子どもが  
かなしそうに見ている

こわいよ  
かなしいよ  
かわいそうだよ  
せんそうのはんたいはなに？  
へいわ？  
へいわってなに？

きゅうにこわくなって  
おかあさんにくっついた  
あたたかくてほっとした  
なくさないように  
わすれないように  
こわいをして、へいわがわかった

# サンマデモクラシー

復帰前の沖縄でオーバーが起こしたビッグウェーブ

沖縄テレビ  
山里孫存



やまざと・まごあり

64年生まれ。沖縄テレビディレクター。本書はテレビ・映画で発表した作品を書籍化した。

イースト・プレス  
1,650円

書籍紹介

目を引くタイトルに、そびえ立つサンマの表紙。どこに連れて行かれるのかわからぬまま読み始めたが、気づけば、著者の「サンマをめぐる冒険」にすっかり引き込まれていた。舞台は、米国統治下の沖縄。琉球政府の上にあった「琉球列島米国民政府（USCAR）」が、日本本土からの「輸入魚」のサンマに20%の物品税をかけた、琉球政府が徴収し始めた。だが課税品目にサンマの文字はない。住民の不満は高まり、1963年、魚屋の玉城ウシという女性が、税金を返せと琉球政府を訴えた。

ウシは裁判に勝つが、その後、USCARトップは「布令」でサンマを課税品目に加え、こゝれは過去にもさかのぼると発表。今度はこの布令を巡り、第2のサンマ裁判が起きる……。ウシが背負った家族の物語と、サンマ裁判の紆余曲折だけで一冊の本になりそうだが、これはまだ序盤。サンマ裁判は、「島ぐるみ闘争」など沖縄の戦後史の源流となり、米軍支配と闘った政治家・瀬長亀次郎ともつながって、大きな展開を見せていく。

生き生きと描き出される登場人物たちは、ウシ、ラッパ、トラ、カメ……と豪傑ぞろい（それが誰を指すのかは、ぜひ本書を読んでいただきたい）。政治的立場や境遇も異なる人たちが「おかしいことはおかしい」と声を上げ、バトンをつなぐように沖縄の自治を勝ち取ってゆくさまには、圧倒される。史実を丹念に追いつつも、堅いノンフィクションの形にしなかつたのは、沖縄の戦後史を少しでも多くの読者に伝えようとする著者の試みだと感じた。軽妙な文章と巧みな構成で、読む人を離さない工夫があちこちにされている。

サンマ裁判が問うたのは沖縄のデモクラシーだけではない。問われたのはむしろ、日本の、そして米国のデモクラシーだった。この本がいま世に出ることの意味を、改めて考えずにはいられなかった。

朝日新聞7/30 朝刊  
評・宮地ゆう

# 歌の力が物語るもの

# 108

## 茨城坂つた行動 7/8 (448回) 報告 Ricco

【参加者】佐藤さん、はしゆきさんと夫さん、えるもくん、イサさん、モリヤさん、達哉、みつえさん、ゆきちゃん、森、男性観客おひとり 計11名

旗を準備していると、「こんにちは」と男性が声をかけてきた。どちらさま?と思ったら「先日、新宿デモで一緒にしました。」と。そつ、辺野古基地建設反対のデモで、背にバズドラム、胸にアコーディオン、口元にトランペットというひとりの楽団をされていた方。お名前は佐藤さん。今日はお仕事帰りのさつで、トランペットとコルネットのラッパ2本でうた行動に来てくれたのだ。そして経産省前行動から

茨城坂を上ってきた一団も、いつもより大勢。イサさん、モリヤさん、はしゆきさんご夫妻、みつえさん、ゆきちゃん、そして自転車青年・えるもくん。彼は、「ぼくはこれです」とテナーリコーダーを掲げた。

佐藤さんはなんとラッパ2本同時吹き。右手左手それぞれに持ち、合奏にしたいのだという。コソソでも2色の音がきれいに茨城坂に響く。ラッパ2本、リコーダーもはしゆきさんの電子リコーダーと合わせて2本、達哉も刺激されてギターを鳴らす。モリヤさんのギターと私のアコーディオンで、ちよっとした楽団の体を成した。歌詞カードは持っていたが楽

譜が無く、楽器の人たちも知っているような曲や替え歌を選んで歌った。『月桃』『沖縄いまこそ立ち上がりろ』『そんな世界が』『ふるさと沖縄』…。けれど、佐藤さんたちは調がわかれば初めての歌でも合わせてくれるのがわかったので、『決意』や『大きな橋』も歌った。私が歌詞を覚えていない『青い空は』や『はばたけ憲法九条』はモリヤさん所蔵の楽譜を見せてもらった。

『ケサラ』『民衆の歌』『こどもの明日のために(アメイジング・グレイス)』あなたに届けと(慈しみぶかき)『風車の唄』『メッセーシ』『声よ集まれ歌となれ』『あたりまえの地球』：もう思いつくまま。音色が重なるってなんて楽しい！通りすがりにカメラを向けて行く人や、立ち止まって観客になり、歩道の反対側で最後まで拍手を送ってくれる人も現れた。通り過ぎていく人たちの表情も、柔らかに

見える。安倍元首相が亡くなった。けれどアベ政治は終わっていない。原発も基地建設も改憲への動きも。メディアの垂れ流し特番に、悪政の中で亡くなった報じられない人々の無念を思う。私たちは抗議を続けよう。



# 水道橋だより

▼5月にCATVで「日本映画専門チャンネル」を見ていたら「サンマデモクラシー」というドキュメンタリー映画を流していた。何気なく見ていたが、だんだんメロしながら最後まで見た。▼USCARのキャラウェイ高等弁務官は、ワンマン社長みたいなもんで、「自治は神話」と言ったとか。アメリカと沖縄の関係は「本社と下請の関係」とも言ったとか。(佐藤)▼3年ぶりの開催を予定している茨城県水戸市のザ・ヒロサワシティ会館小ホールについて舞台監督から一言。とにかく狭いです。さらに感染症対策として、出演者は1メートルの間隔を開けるように要請されています。詳細については、申し込み頂いた方に直接お知らせしますが、ご協力の程宜しく願います。出演いただく皆様にはご苦勞をおかけすることになりそうですが、小さなステージではあっても、3年の年月が蓄積した熱い演奏を想像しワクワクしています！ (坂口)

▼ロシアのウクライナ侵攻に強く抗議し、ただちに軍を撤退させるように改めて求めます。一方日本政府は、軍事同盟であるNATOと一体で行動していますが、軍事対軍事の一方に加担するのではなく、憲法9条をもつ日本だからこそできる役割を果たすべきです。国内ではロシア、中国、北朝鮮に備えるのだとして、アメリカとの軍事同盟強化、敵基地攻撃能力、核共有という議論がありますが、軍拡競争で平和は守れないことは日本が一番よく知っているはず。戦争放棄の理念をもとに極東の安定をめざすべきです。(松本)

# どん行

(157)

飯島貞親

きった構図だ▼「国葬」にはたっぷりの血税が使われるのだから、もう納税するのがいやになる。

▼「国葬に閣僚(えんま)が呆れる嘘の数」。不謹慎ながら秀逸の川柳だ▼安倍元首相を「国葬」にしようとして岸田文雄首相は即決したが、メディアは一斉に、統一教会と国際勝共連合との癒着関係を暴露している▼安倍氏は、首相としての在任期間が長かったのが評価されているようだが、拉致も北方領土もアベノミクスも口数ばかり多い割には何の成果もない。それどころか森友・加計学園問題、「桜を見る会」等に見られる政治の私物化にかかわる疑惑等を首相自らが引き起こした上、国会で虚偽答弁を繰り返した結果、未だその真相は明らかになっていない。さらに自殺者まで出した行政文書の改ざん問題についても、未解決なままだ▼内閣・自民党合同葬なら「それに相応しいか」という議論が起こる余地はないのかもしれないが、戦後は法律上の定めがない「国葬」となるそうはいかない。世間的にはしばらく忘れられていた「統一教会」とは何なのか改めて関心が集まり、この国際的な詐欺集団と岸信介から安倍晋太郎そして晋三に至る政治家一家3代に及ぶ癒着関係が浮き彫りになってくる。腐り